

仙人

芥川龍之介

青空文庫

皆さん。

私は今大阪にいます、ですから大阪の話をしましょう。

昔、大阪の町へ奉公ほうこうに来た男がありました。名は何と云ったかわかりません。ただ飯め炊奉公したきぼうこうに来た男ですから、権助ごんすけとだけ伝わっています。

権助は口入れ屋くちいの暖簾のれんをくぐると、煙管きせるを啣くわえていた番頭に、こう口の世話を頼みました。

「番頭さん。私は仙人せんじんになりたいのだから、そう云う所へ住みこませて下さい。」

番頭は呆気あっけにとられたように、しばらくは口も利きかずにいました。

「番頭さん。聞えませんか？ 私は仙人になりたいのだから、そう云う所へ住みこませて下さい。」

「まことに御気の毒様ですが、——」

番頭はやつといつもの通り、煙草たばこをすばすば吸い始めました。

「手前の店ではまだ一度も、仙人なぞの口入れは引き受けた事はありませんから、どうかほかへ御出おいでなすつて下さい。」

すると権助ごんすけは不服ふふくそうに、千草ちくさの股引ももひきの膝ひざをすすめながら、こんな理窟りくつを云い出しました。

「それはちと話が違ちがうでしょう。御前ごぜんさんの店の暖簾あしきには、何と書いてあると御思ごしいなさる？ 万口よろずくちい入れ所どころと書いてあるじやありませんか？ 万と云うからは何事なにことでも、口入れをするのがほんとうです。それともお前まへさんの店では暖簾あしきの上に、嘘うそを書いて置いたつもりなのですか？」

なるほどこう云われて見ると、権助が怒るのももつともです。

「いえ、暖簾あしきに嘘うそがある次第しだいではありません。何でも仙人せんじんになれるような奉公ほうこう口を探せとおっしゃるのなら、明日あしたまた御出ごしゅつで下さい。今日きょう中に心当こころあたりを尋ねて置いて見ますから。」

番頭ばんとうはとにかく一時逃のがれに、権助の頼たのみを引き受けてやりました。が、どこへ奉公ほうこうさせたら、仙人せんじんになる修業しゆぎょうが出来るか、もとよりそんな事ことなどはわかるはずがありません。ですから一まず権助を返すと、早速さつそく番頭ばんとうは近所ちかみちにある医者いしゃの所へ出かけて行きました。そうして権助の事を話してから、

「いかがでしょう？ 先生せんせい。仙人せんじんになる修業しゆぎょうをするには、どこへ奉公ほうこうするのが近路ちかみちでしょう？」と、心配しんぱいそうに尋ねました。

これには医者も困ったのでしよう。しばらくはぼんやり腕組みをしながら、庭の松ばかり眺めていました。が番頭の話を知ると、直ぐに横から口を出したのは、古狐ふるぎつねと云う渾名あだなのある、狡猾こうかつな医者の女房です。

「それはうちへおよこしよ。うちにいれば二三年うち中には、きつと仙人にして見せるから。」
 「左様さようですか？ それは善い事を伺いました。では何分願います。どうも仙人と御医者様とは、どこか縁が近いような心もちが致して居りましたよ。」

何も知らない番頭は、しきりに御時宜おしぎを重ねながら、大喜びで帰りました。

医者は苦い顔をしたまま、その後あとを見送っていました。やがて女房に向いながら、
 「お前は何と云う莫迦ばかな事を云うのだ？ もしその田舎者いなかものが何年いても、一向いつこう仙術を教えてくれぬぞと、不平でも云い出したら、どうする気だ？」と忌々いまいましそうに小言こごとを云いました。

しかし女房はあやまる所か、鼻の先でふふんと笑いながら、

「まあ、あなたは黙つていらつしやい。あなたのように莫迦正直がらでは、このせち辛い世の中に、御飯ごはんを食べる事も出来はしません。」と、あべこべに医者をやりにこめるのです。

さて明るる日になると約束通り、田舎者の権助は番頭と一しよにやって来ました。今日

はさすがにごんすけ権助も、初の御目見えだと思つたせいか、もんつき紋附の羽織を着ていますが、見た所はただの百姓と少しも違つたようす容子はありません。それが返つて案外だったのでしよう。医者はまるでてんじく天竺から来たじやこうじゆう麝香獣でも見る時のように、じろじろその顔を眺めながら、

「お前は仙人になりたいのだそうだが、一体どう云う所から、そんな望みを起したのだ？」と、ふしん不審そうに尋ねました。すると権助が答えるには、

「別にこれと云うわけ訣もございませんが、ただあの大阪の御城を見たら、たいこうさま太閤様のように偉い人でも、いつか一度は死んでしまふ。して見れば人間と云うものは、いくらえようえいが榮耀榮華をしても、はか果ないものだと思つたのです。」

「では仙人になれさえすれば、どんな仕事でもするだらうね？」

こうかつ狡猾な医者の女房は、す隙かさず口を入れました。

「はい。仙人になれさえすれば、どんな仕事でもいたします。」

「それでは今日から私のわたし所に、二十年の間奉公おし。そうすればきつと二十年目に、仙人になる術を教えてやるから。」

「左様さようでございますか？ それは何よりありがと難有うございます。」

「その代り向う二十年の間は、一文も御給金はやらないからね。」

「はい。はい。承知いたしました。」

それから権助は二十年間、その医者之家に使われていました。水を汲む。薪を割る。飯を炊く。拭き掃除をする。おまけに医者が外へ出る時は、薬箱を背負つて伴をする。

——その上給金は一文でも、くれと云つた事がないのですから、このくらい重宝な奉公人は、日本中探してもありません。

が、とうとう二十年たつと、権助はまた来た時のように、紋附の羽織をひっかけながら、主人夫婦の前へ出ました。そうして慇懃に二十年間、世話になった礼を述べました。

「ついでに兼ね兼ね御約束の通り、今日は一つ私にも、不老不死になる仙人の術を教えてくださいたいと思いますが。」

権助にこう云われると、閉口したのは主人の医者です。何しろ一文も給金をやらずに、二十年間も使つた後ですから、いまさら仙術は知らぬなぞとは、云えた義理ではありません。医者はそので仕方なしに、

「仙人になる術を知っているのは、おれの女房の方だから、女房に教えて貰うが好い。」と、素つ気なく横を向いてしまいました。

しかし女房は平気なものです。

「では仙術を教えてやるから、その代りどんなむずかしい事でも、私の云う通りにするのだよ。さもないと仙人になれないばかりか、また向う二十年の間、御給金なしに奉公しないと、すぐに罰ばちが当つて死んでしまうからね。」

「はい。どんなむずかしい事でも、きつと仕し遂とげて御覧に入れます。」

権助ごんすけはほくほく喜びながら、女房の云いつけを待っていました。

「それではあの庭の松に御登り。」

女房はこう云いつけました。もとより仙人になる術なぞは、知っているはずがありませんから、何でも権助に出来そうもない、むずかしい事を云いつけて、もしそれが出来ない時には、また向う二十年の間、ただで使おうと思つたのでしよう。しかし権助はその言葉を聞くとすぐに庭の松へ登りました。

「もつと高く。もつとずつと高く御登り。」

女房は縁えん先さきに佇たみながら、松の上の権助を見上げました。権助の着た紋附の羽織は、もうその大きな庭の松でも、一番高い梢こすえにひらめいています。

「今度は右の手を御おほ放なし。」

権助は左手にしっかりと、松の太枝をおさえながら、そろそろ右の手を放しました。

「それから左の手も放しておしまい。」

「おい。おい。左の手を放そうものなら、あの田舎者は落ちてしまわず。落ちれば下には石があるし、とても命はありやしない。」

医者もとうとう縁先へ、心配そうな顔を出しました。

「あなたのお出る幕ではありませんよ。まあ、私に任せて御置きなさい。——さあ、左の手を放すのだよ。」

権助はその言葉が終わらない内に、思い切つて左手も放しました。何しろ木の上に登つたまま、両手とも放してしまつたのですから、落ちずにいる訣はありません。あつと云う間に権助の体は、権助の着ていた紋附の羽織は、松の梢から離れました。が、離れたと思うと落ちもせず、不思議にも昼間の中空へ、まるで操り人形のように、ちゃんと立止つたではありませんか？

「どうも難有うございます。おかげ様で私も一人前の仙人になれました。」

権助は叮嚀に御時宜をすると、静かに青空を踏みながら、だんだん高い雲の中へ昇つて行つてしまいました。

医者夫婦はどうしたか、それは誰も知っていません。ただその医者の庭の松は、ずつと
後あとまでも残のこっていました。何でも 淀屋辰五郎よどやたつごろうは、この松の雪景色を眺めるために、四抱よつかか
えにも余る大木をわざわざ庭へ引かせたそうです。

(大正十一年三月)

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集5」ちくま文庫、筑摩書房

1987（昭和62）年2月24日第1刷発行

1995（平成7）年4月10日第6刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集」筑摩書房

1971（昭和46）年3月～1971（昭和46）年11月

入力：j:utyama

校正：かとうかおり

1999年1月5日公開

2004年3月9日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

仙人

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>